

研究・調査報告書

報告書番号	担当
359	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名 (原題/訳)	
Psychosocial conditions on and off the job and psychological ill health: depressive symptoms, impaired psychological wellbeing, heavy consumption of alcohol 就業中とそれ以外の精神社会的状況と精神の不健康状態：うつ症状、精神障害、多量飲酒	
執筆者	
H Michelsen, C Bildt	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Occupational Environmental Medicine 2003; 60: 489-496	
キーワード	
精神社会的状況、就業、うつ症状、精神障害、多量飲酒	
要 旨	
<p>(目的) 精神衛生分野の疫学は性、社会経済的状態、精神障害の関連を明らかにしてきた。この研究の目的は、就業中とそれ以外によって、精神社会的状況が異なっているか、精神の不健康状態に影響を与えているかという状況について、質問票を用いて明らかにすることである。</p> <p>(方法) 対象は 1969-70 年のストックホルムの労働者のうち 24 年間長期追跡が可能であった 367 名 (女性 190 名、男性 177 名) であった。対象者には 1969 年と 1993 年に就業時と余暇時のインタビューと質問票にて調査を行った。調査内容は、勤務時間、夜勤や交代勤務の状況、超過勤務時間、1 日のうちの余暇時間、余暇活動の満足度/不満足度、社会との関わり、社会との関りに関する満足度/不満足度、家事・育児への貢献度についてであった。精神的異常の評価は GHQ12 を用いて行い、75 パーセント以上を精神的異常ありとした。多量飲酒は、1 週間に女性でエタノール換算 105g 以上、男性でエタノール換算 140g 以上を飲んでいることと定義した。</p> <p>(結果) 女性の 13%、男性の 11% がうつ症状、女性の 21%、男性の 22% が精神的異常、女性の 7%、男性の 15% が多量飲酒であった。24 年間追跡調査の結果、社会との関わりに関し、女性では質的に、男性では量的に不満を持っていることが有意なうつ症状の危険因子であった。また女性において、量的に仕事の不満を持っていることが精神障害と有意な関連がみられた。男性において、余暇活動に不満を持っていることが多量飲酒と有意な関連がみられた。断面調査でも、精神の不健康状態といくつかの労働関連要因 (精神的な仕事依存と仕事に対するプライドの欠如) がみられた。</p> <p>(結論) 社会との不適合に気づいたり、社会との関係において実際的な障害があることはうつ病の危険要因と考えられる。この追跡調査では、精神的な仕事依存や時間的プレッシャーを含む労働関連要因と精神的不健康との関連を十分に表すことは出来なかった。</p>	